

令和 6 年 5 月 17 日現在

機関番号：32621

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K18295

研究課題名（和文）家庭における外国人ケア労働者の利用と課題 フランスと日本の事例から

研究課題名（英文）Utilising Migrant Care Workers at Home: The Comparison between France and Japan

研究代表者

牧 陽子 (MAKI, Yoko)

上智大学・外国語学部・准教授

研究者番号：50802451

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：家庭での外国人ケア労働者の利用について、フランスの保育と介護の事例から検討した。フランスで最も利用が多いのは「保育ママ（家庭的保育）」、介護も在宅支援政策がとられており、フランスの保育・介護は在宅ケアがメインである。

現地調査などからは、介護では在宅でも身体的ケアの外部化がなされ、子の役割は情緒的支援などへとシフトしていることが判明した。だが親子のつながりは弱体化したわけではないという指摘もある。保育・介護とも在宅でのケアを担うのはパリでは多くの場合、移住女性である。介護では労働が細分化され、ディーセントワークは厳しいが、公的介入などにより保育ママは比較的良好な待遇を得ていることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ケア研究においては子ども・高齢者という二つの領域のケアを同時に考察することの必要性が指摘されているが、これら二つを同時に分析射程に入れた研究は乏しい。そのような中、本研究はフランスという、子ども・高齢者へのケアで在宅ケアを旨とする国をフィールドに、両分野を対象としたことで、ケア労働でディーセントワークが可能になる条件についてそのカギとなる要因に接近することができた。さらに、パリを対象に入れたことで、社会・文化資本が乏しい移住女性が、より良い労働環境で比較的高い報酬を得られる例もあること、またそれはいかなる環境の下で可能なのかについて示唆を得た。移住女性のエンパワーメントにつながる知見である。

研究成果の概要（英文）：This study examined the use of migrant care workers in the domestic setting, specifically in childcare and older person's care within France. The particularity of France is cares in both fields are based on in-home services: The childcare is predominantly provided by childminders and older person's care is based on in-home support policies.

One significant finding is that physical care to older persons is outsourced to domestic professionals while adult children's roles transition primarily to emotional supports. Some local scholars argue that this shift does not necessarily indicate a weakening of the parent-child family bond. The study revealed also that both childcare and older person's care are primarily assumed by migrant women in Paris. In older person's care, due to its fragmented nature, they often face difficulties in securing decent working conditions. In contrast, childminders benefit from better working conditions because of public intervention among others.

研究分野：社会学

キーワード：ケア 移住女性 ケア労働 保育 介護 フランス 女性の就業 ディーセント・ワーク

1. 研究開始当初の背景

人口の高齢化や女性の労働市場進出に伴い、多くの先進国で「ケアの赤字」(Hochschild 2003)と呼ばれる事態が深刻化している。グローバル化の進展と国境を越えた人の移動の増加を背景に、女性が家庭で伝統的に担っていたケアを、外国人女性に家庭内で外部化するという現象が、程度の違いこそあれ各国で顕在化しており、欧米を中心に学術的にも高い関心を集めている。

日本においても、経済連携協定(EPA)により介護施設や病院において、ベトナムなど東南アジアからの介護福祉士候補者や看護師候補者が2008年から働いている。また「女性活躍推進」という目的で、外国人による家庭での家事支援が、一部の特区で2017年に始まった。家庭での外国人労働力への外部化はまだごく一部であるものの、「ケアの赤字」を埋めるべく、政府は新たな在住資格に「介護」を設けるなど、外部化に向けた準備が進みつつある。

研究代表者は2017年に学位を得た博士論文において、フランスの在宅保育を対象に、家族政策の分析と当事者(親・ケア労働者)38人へのインタビュー調査から、その市場の成立プロセスについて考察した。手厚い家族政策で知られるフランスだが、親の希望が高い保育所の数は足りず、多くは保育ママ(家庭的保育者:認定を得て自宅で子どもを保育する者)や、利用者宅で保育するナニーが保育の主な受け皿となっている。そして、こうした在宅での保育を担うのは、首都パリでは多くの場合、アフリカ大陸からの移住女性たちである。

保育においてこのような状況にあるフランスにおいて、介護分野ではどのようにケアは外部化されているのだろうか。公的介入の比較的多いフランスにおいて、彼女たちの労働待遇はいかなる状況にあるのか。子どもへのケアと高齢者へのケアを併せて考えることの必要性はかねてからなされているが、両者を射程に入れた研究は十分になされているとは言えない。フランスで、介護を含めた家庭でのケアの外部化について調査・研究をすることにより、待遇の悪さや低評価が指摘されてきたケア労働において、ディーセント・ワークを可能にするカギを探ることができるのではないか。また女性の労働力率が高いフランスの事例は、女性のさらなる労働力化が期待される日本に対しても何らかの示唆を与えるのではないかというのが、本研究の背景である。

2. 研究の目的

フランスにおいてケアサービスは、保育・介護の両分野とも主に在宅で行われている。保育においては保育ママが最も利用の多い保育であり、介護においても在宅支援政策が推進されてきた。このように、家庭で主になされる有償のケアへの外部化は、フランスではどのように実践されているのだろうか。パリの在宅保育においては移住女性が多くを担っていることが研究代表者のこれまでの研究から判明しているが、介護においても同じなのか、地方ではどうなのだろうか。彼女らは相応の労働環境・賃金で働いているのか。またその場合、何がそれを可能にしているのか。

フランスの、保育・介護の両分野における家庭でのケアの外部化の様相を明らかにし、日本への示唆を得ることが本研究の目的である。

3. 研究の方法

上記の問いについて、文献・フィールドの両レベルのデータから検証するため、介護・保育にかかわる政策についての文献調査と、家庭でのケアの外部化の様相についてフィールド調査を行った。

(1) 政策分析

フランスの保育に関する家族政策、および介護に関する高齢者支援政策について、先行研究レビューや制度の分析を行ったほか、統計調査から現状を数値化し、把握する作業を行った。

(2) フィールド調査

保育について、研究代表者はすでに保育者と親、計38名へのインタビュー調査を2014~2015年に行っているため、主に介護に関する現地調査を2018年と2019年に行った。コロナ禍により2020年以降、しばらく海外での調査を控えていたが、保育について前回調査から時間が経過してしまっただけで、データ更新のために補足の現地調査を2024年に行った。

2018年9月と2019年3月にフランスで調査を行い、高齢者11人、ヘルパーや介護士など介護職13人、高齢者のいる家族7人へのインタビュー調査のほか、行政の担当者や、ヘルパー等を派遣する企業・NPO、訪問看護ステーションで聞き取り調査を行った。フランスでは、施設入居に対して非常にネガティブなイメージがあることがわかったため、参考のために老人ホーム（EHPAD）や、自立居住施設（Résidence-autonomie）でも聞き取り調査を行った。調査場所は、2018年9月はパリとその近郊、2019年3月は南部の都市、サロンドプロヴァンスおよびパリ近郊である。

保育ママに関する現地調査

前回の2014～2015年調査から10年近い月日が経ってしまったため、保育ママの利用とその報酬、需給バランスについて、2024年2～3月に調査を行った。保育ママ約10人にインタビュー調査を行ったほか、保育ママを管轄するパリ市最高責任者および12・15区の乳幼児担当施設（RPE:Relais Petite Enfance）において聞き取り調査を行い、データをアップデートした。

4. 研究成果

これらの調査、分析から明らかになったのは以下の点である。

介護について、フランスでは高齢者の「自立」を支援し、在宅でも身体的ケアが家族から外部化されていることから、家族介護を理由に女性が「介護離職」をするようなことはほぼないことが明らかになった。出産や子育てと異なり、介護は女性の就業の妨げにはならないと言える。ただし、日曜日には頻繁に老親のいる家や施設を訪れるなど、親子の情緒的つながりやサポートは決して弱いわけでもないことも発見した。これは、フランスの先行研究で指摘されている内容とも一致している（Da Roit et Le Bihan 2009, Daune-Richard et al. 2012 など）。

（以下、非公開）

2020年からのコロナ禍により現地調査などで大きな制約を受けることとなったが、2023～2024年にかけては国際学会での発表やフランスでの補足調査、現地の大学での研究発表等、国際的な発表・交流を積極的に行った。2023年には国際社会学会（ISA）のメルボルン世界大会においてケアの対価に関する考察を発表したほか、フランスにおいてもトゥール大学、パリ＝ドゥファイヌ大学で研究発表を行い、さまざまな国籍、分野の研究者からコメントをいただいた。その成果は研究期間終了後、引き続き論文執筆等により発信していく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 牧 陽子	4. 巻 16 - 1
2. 論文標題 ケアの義務の国際比較 日・仏・スウェーデンの保育・介護から	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 社会政策	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧 陽子	4. 巻 15
2. 論文標題 ケアのグローバル化とヨーロッパ イタリア・フランスの事例にみる家庭での外部化と移住女性	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 上智ヨーロッパ研究	6. 最初と最後の頁 19～35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧 陽子・山本菜月	4. 巻 20
2. 論文標題 老親介護と子の意向 関係性と規範に着目して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 福祉社会学研究	6. 最初と最後の頁 173-194
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧 陽子	4. 巻 30
2. 論文標題 フランスにおける在宅保育市場の需要と供給 パリの保育ママ・ヌリスと親の実践から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日仏社会学会年報	6. 最初と最後の頁 111～134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Yoko MAKI
2. 発表標題 Le prix du 'care' : Une reflexion sur le travail de la garde d'enfants et des aides aupres des personnes agees a domicile en France
3. 学会等名 Seminaire du laboratoire IRISSO, Universite Paris-Dauphine (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Yoko MAKI
2. 発表標題 Le prix du 'care' : Une reflexion sur le travail de la garde d'enfants et des aides aupres des personnes agees a domicile en France
3. 学会等名 Seminaire du laboratoire COSTO, Universite Tours (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 牧 陽子
2. 発表標題 「ケアの義務の国際比較 日・仏・スウェーデンの育児・介護から」
3. 学会等名 社会政策学会147回大会共通論題『ケアする権利・しない権利 脱義務的介護を目指して』（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yoko MAKI
2. 発表標題 The Price of Care: A Reflection on Work in Childcare and Elderly Care in France
3. 学会等名 The XX ISA World Congress of Sociology in Melbourne (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 牧 陽子
2. 発表標題 「フランスの女性国会議員たち：全数調査にみる特徴とパリテの現状」
3. 学会等名 ジェンダー平等推進機構
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 牧 陽子
2. 発表標題 「フランスの在宅保育政策 女性の就労と移民ケア労働者」
3. 学会等名 社会政策学会第143回大会書評分科会，評者：新井美佐子教授（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 牧 陽子
2. 発表標題 「フランスにおける女性の就業とケアの外部化」
3. 学会等名 男女共同参画推進実行委員会・「フランスに学ぶパリテ法の成果と課題」研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 牧 陽子
2. 発表標題 「老親介護と子の選好 NFRJ2018データからみる介護意向」
3. 学会等名 日本家族社会学会NFRJ18（第4回全国家族調査）研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 牧 陽子
2. 発表標題 「ケアの労働環境と移住労働者たちの地位向上への実践 フランスの保育・介護の事例から」
3. 学会等名 日本社会学会大会テーマセッション「移住家事労働者研究の現在と未来 『家事労働の国際社会学』を議論する」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 牧 陽子
2. 発表標題 「パリの在宅保育と移民ケア労働者 コートジボワール出身女性にみる上昇戦略と行為主体性」
3. 学会等名 日仏女性研究学会研究発表会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 上智大学外国語学部フランス語学科 牧 陽子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 プリントボーイ	5. 総ページ数 247
3. 書名 地域研究のすすめ フランス語圏編 2023 (3章 8 多様化するフランスの家族 『伝統的』家族から再構成・同性親家族まで)	

1. 著者名 富士谷 あつ子、新川 達郎、井谷聡子、藤野敦子、シモン・サルブラン、牧 陽子 他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 320
3. 書名 『フランスに学ぶジェンダー平等の推進と日本のこれから』(第6章 フランスにおける女性の就業とケアの外部化 在宅保育・介護を中心に -)	

1. 著者名 牧 陽子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 248
3. 書名 フランスの在宅保育政策 女性の就労と移民ケア労働者	

1. 著者名 上智大学外国語学部ヨーロッパ研究コース編 牧 陽子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 347
3. 書名 新しいヨーロッパ学(2章2 ヨーロッパの福祉国家とジェンダー)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------